

愛知県図書館企画展示

明治はいかに英語を学んだか

日本における英語学習の歴史は、オランダ語と比べそれほど古くありません。幕末から明治維新の頃に私たちの先祖が英語を学び始めてから、まだおよそ150年にすぎません。今回の展示では、英語の学問すなわち「英学」がどのようにして始まり、広まっていったかを、主に辞書の歴史からたどるものです。

この地方で初めて英語を習得し国際人として生きたであろう知多美浜の漂流民・音吉おときちの生涯や、日本で最初に作られた英和辞書に関するエピソードを紹介しながら、英学黎明期の辞書のほか、英学史に関する図書なども展示し、幕末・明治から大正にかけて、辞書編さんに携わった人々の足跡を見ていただきます。



平成20年1月11日(金)～2月27日(水)
愛知県図書館 2階ロビー 入場無料

関連企画 講演会「明治はいかに英語を学んだか」

日時:平成20年1月27日(日)午後1時30分から3時まで

場所:愛知県図書館 1階AVホール

講師:愛知大学大学院 はやかわいさむ 早川勇教授(展示資料提供・監修)

(詳しくは裏面をご覧ください)



【お問合せ先】

愛知県図書館 総務課企画グループ

〒460-0001 名古屋市中区三の丸一丁目9番3号

Tel 052-212-2323 Fax 052-212-3674

URL <http://www.aichi-pref-library.jp/>

地下鉄/鶴舞線または桜通線「丸の内」下車8番出口
市バス/名古屋駅ターミナルから幹名駅1・名駅14
「愛知県図書館」下車

(図版は明治22年『絵合当物智恵すすめ』より)

明治はいかに英語を学んだか

展示期間：2008.1.11（金）～ 2.27（水）

展示資料の例

えいごせん

英語箋 万延元年（1860）（早川教授蔵）

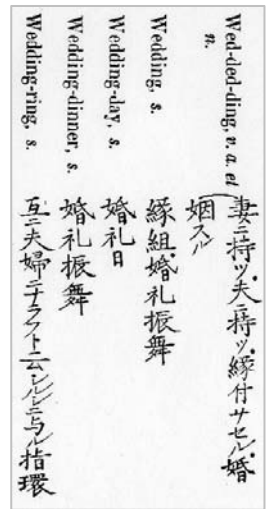
長崎の通詞（通訳のこと）であった石橋政方が編集した単語集。

えい わたいやくしゅうちん じしよ

英和对訳袖珍辞書 文久2年（1862） 昭和48年複製版（早川教授蔵）

わが国初の英和辞典。堀達之助を中心に洋書調所の学者がオランダの辞書を底本とし、『和蘭字彙』などを参考にして日本語訳をつけた。活版と木版を併用し、オランダから送られた手動印刷機で印刷した洋装本。右図はその一部。

慶応2年（1866）の改訂増補版も展示。こちらは、和紙に印刷されて大部となったため当時の人々から「枕辞書」と呼ばれた。



ふおんそうずえいわじい

附音挿図英和字彙 明治6年（1873）（早川教授蔵）

柴田昌吉、子安峻が編纂し、横浜の日就社から出版された。当時としては最高の体裁で最上の内容の英和辞典で、明治20年頃まで広く利用された。子安峻は岐阜県大垣の生まれで読売新聞の創設者。

てつかくじい

哲学字彙 明治14年（1881）（愛知県図書館蔵）

哲学用語の英和对訳字典。西洋の未知の思想や制度を取り入れるにあたって、新たな日本語の語彙が必要となった。哲学では、西周らが多くの専門用語を造ったが、当初は学者間で不統一も多かった。そこで井上哲次郎ら東京大学の教授陣がそれらの用語を統一し一つの原理を与えた。その集成が本書。

歴史絵本 日本に帰れなかった男たち 平成14年（2002）（愛知県図書館蔵）

天保3年（1832）、知多の小野浦（現在の美浜町）の船乗り14人が鳥羽を出航後に嵐で遭難、1年以上の漂流ののちアメリカ西海岸に漂着。生き延びた音吉らはロンドン、シンガポール、マカオ、上海を経て帰国しようとしたが、鎖国政策のため祖国に戻ることは叶わなかった（モリソン号事件）。彼らの生涯を子どもから高齢者まで広く読めるやさしい読み物にして「音吉の会」が発行した。

講演会

日時：平成20年1月27日（日）午後1時30分から3時まで

場所：愛知県図書館 1階AVホール（午後1時開場）

講師：早川勇氏 愛知大学大学院教授 言語文化学博士

関連著作『日本の英語辞書と編纂者』春風社 2006.3

『ウェブスター辞書と明治の知識人』春風社 2007.11

参加方法：申込みは不要です。上記時刻までに会場へおこしてください。（入場無料）